

平成28年度 第2回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 平成28年10月26日(水) 14時00分～16時13分

2 開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 審議事項

(1) 「環境白書」について

(2) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 榎村久子

副会長 中西達也

委員 下村晴意 福中真美 藤堂宏子 西岡英俊

矢田千鶴子 濱崎文紀 小山彩

事務局 平井克典 地域活力創生部長

吉岡源裕 市民部長

吉川和博 環境保全課長

川島健司 環境モデル都市推進課長

佐伯敏彦 環境保全課課長補佐

竹本好文 環境保全課課長補佐

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

田所智 環境保全課環境保全係長

北里直之 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

日和岳 環境保全課環境保全係員

竹田有希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

5 傍聴者 なし

14時00分 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

地球温暖化の影響かどうか定かではないが、今年は東北や北海道など、普段台風が来ない地域で台風の被害があった。来月は温暖化に関する国際的な取組が始まる。日本も早く批准してもらいたいという思いである。今日も忌憚の無い意見をもらいたい。

(3) 審議事項

以下、発言要旨。

榎村久子会長 会議の成立について事務局に報告を求める発言。

- 事務局** 会議の成立について報告。全委員14名のうち9名の出席により会議は成立。
- 榎村久子会長** 事務局に傍聴者の報告を求める発言。
- 事務局** 傍聴者はなし。
- 榎村久子会長** 案件1「『環境白書』について」審議を宣告。
事務局に説明を求める発言。
- 事務局** 事前に配布した資料1「《平成28年度版》生駒市の環境」をもとに主要な内容を説明。ごみ半減プランの進捗状況については、資料2「生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（ごみ半減プラン）進捗状況」及び当日配布資料「平成27年4月1日から家庭ごみの有料化がスタート！」の内容も含めて説明。
- 榎村久子会長** 委員からの質問、意見を求める発言。
- 藤堂宏子委員** 回答は後でもらえれば良いが疑問に思ったことを言いたい。1点目、家庭系ごみは減少傾向にあるが事業系ごみは数値を見る限り増加傾向にある。その要因をどのように分析しているか。例えば「事業所が増えた」や「景気が良くなった」など。資料2⑦で、「事業系ごみ減量・資源化促進の為の取組は従前から実施」となっているが、数値だけを見ると更なる取組が必要だと感じる。今後の対策について考えはあるか。
- 2点目、15ページ⑨で街路灯に新しいタイプの省エネ効果のある照明を導入する取組の記載があるが、市内の公園内にある照明はどうなっているか。
- 3点目、二酸化炭素排出量の削減目標の中で、カーボン・オフセットを今後考えているとすればどれ位の割合が見込めるのか、具体的な見通しがあるのか。
- 4点目、ごみ減量市民会議でも出ている意見だが、生ごみ処理機の補助金として市から拠出している件数がかなりの数あるが、その後、生ごみ処理機が実際に使用されているのか、もし使用されていない方がいるとすれば、その方たちにどのようなフォローをすればいいのか、との質問。
- 榎村久子会長** 1つ目の事業系ごみに関する質問について事務局に回答を求める発言。
- 事務局** 事業所が若干増えつつあることが原因かと思っているが、詳しくは分析できていない。事業系ごみについても資源ごみと燃えるごみの分別はしてもらっているが、今後は紙類についてシュレッダー処理をどこまでできるのか等、事務所をまわって減量の方法を共に検討していきたいと思っている、と回答。
- 中西達也委員** それに関連しての質問だが、資料2⑦で「取組の充実」と記載しているが、何の取組なのかわからない。具体的に今どういう取組をしていて、今後どのような取組を検討しているのか説明してもらいたい、との発言。
- 事務局** 生駒市の場合、事業系ごみには指定袋を導入している。20ページ図表18「ごみ排出量の推移」を見てもらいたい。平成24年10月から指定袋制を導入した結果、1割程度ごみの量は減少し、平成25年度には最も少なくなった。しかし、大規模郊外店が最近増えているためごみの量も増

えているように思う。従前からの取組とは、このことを指している。この後の対応についてだが、ごみ減量市民会議も家庭系ごみ中心の議論になっているが、会議には事業者にも入ってもらっているので、こちらでも検討していきたいと考えている、と回答。

福中眞美委員

今の説明に関して、平成24年10月から導入した指定袋制により、事業系ごみは減少したと理解してよいか、との質問。

事務局

肯定の返答。

福中眞美委員

家庭ごみの話になるが、昔は重量制で清掃リレーセンターに受け取ってもらっていたところが、袋に入れなければならなくなった。お年寄りの市民からは、「家の片づけをして大量にごみが出た場合、袋に入れなければならなくなったので大変だ。」という声がある、との発言。

事務局

家庭からたくさんごみを出される場合、集団資源回収の対象となるもの（本、雑誌、紙、服、靴等）を分けてもらいたいという思いがある。重さで受け入れると資源化できないので協力してもらいたい、と回答。

福中眞美委員

袋に分けて入れるのが大変でなんとかならないのか、という意見だったので、今の説明を市民に伝えたいと思う、との発言。

榎村久子会長

ごみの問題は身近な問題である。さらに高齢化が進んだ場合、リレーセンターに持って行くのは大変だと思う。行政が取りに行くという方法はあるのかどうか、との質問。

事務局

今も「まごころ収集」という方法がある。要介護認定や福祉サービスを受けている方などが対象である。家庭の状況を実際に面談して必要があれば「まごころ収集」の対象として個別収集に広げていきたいと思う。懇談会等でも坂道が多い中、お年寄りを持っていくことが出来ない等の話も出ている。そのような事例に対し「まごころ収集」のことを伝えると、逆に自治会から地域ぐるみの助け合いの方法もあると意見をいただき、心強く感じている、と回答。

福中眞美委員

ごみ屋敷につながる問題もあり、高齢者の方が今のうちにと片付けられている中で、前は自動車を持ち込みして計量できたのに、という意見だったので伝えさせてもらった、と発言。

榎村久子会長

2点目の公園における高効率照明について、回答を求める発言。

事務局

公園については都市整備部が管理している。公園にどのような器具がいくつかあるのかという調査をしている。それに基づいて、LEDや無電極ランプ等何が一番良いか検討した上で替えていくと聞いている、と回答。

榎村久子会長

3点目のカーボン・オフセットについて。これは会議の時のみ実施しているのか、との質問。

事務局

今のところ生駒市で実施しているのは、大きなイベント時に会場で使う電気量や参加者の交通機関の利用により発生する二酸化炭素をオフセットするものである。環境白書18ページにも書いているがイベントだと3t-CO₂位にしかならない。9ページにもあるが総排出量が31万tというレベルなので、市民に対する啓発という意味が大きく、カーボン・オフセットをきっかけに、家庭での取組を進めるという意味で実施していると説明。

**榎村久子会長
事務局**

4点目、生ごみ処理機の使用実態と対応について回答を求める発言。
現在、結果を分析中のアンケート調査がある。この中に生ごみ処理機についても記載があるのでどれ位普及が進んだか等わかると思う。機械式のもは平成26年度にかなりの台数が普及した。懇談会参加者の中での利用者の意見にはなるが、「画期的」「電気代がかさむ」「音がするので台所に置きにくい」等の声がある。今後も懇談会を継続して意見を聞きながらやっていきたい。キューロ型は電気不要でバクテリアで分解するタイプであるが、普及が課題のため、周知を進めながら生ごみの減量に取り組んでいく。どのあたりが使いにくいのか等の意見も聞きながら対処していく、と説明。

**福中眞美委員
事務局**

今の回答だと、今後、生ごみ処理機利用者に対してアンケートを取るつもりは無いということか、との質問。

今のアンケートはごみ減量市民会議のアンケートで、ごみ全体に関わるものであり、その中で生ごみ処理機を利用しているかどうか問う設問がある。今後は補助した方を対象にしたアンケートも検討したい、と回答。

**福中眞美委員
事務局**

藤堂委員の質問の意図は、どうやってフォローするかだったと思うので質問した、との発言。

藤堂委員はごみ減量市民会議のメンバーでもあるので、一緒に考えていきたい、との回答。

榎村久子会長

この件については、「ごみ処理」という視点だけでなくグローバルには、もっと新しい取組も始まっているので、より広い視点で考える必要がある、と発言。

下村晴意委員

45ページに、「食品ロス削減買い物キャンペーン」とあるが、最終的にはこの部分をやっていかなければならず、政府も取組を進めている。ここに記載されている「買い物ガイド」はどこが作ったのか？との質問。

**矢田千鶴子委員
下村晴意委員**

ECO-net 生駒である、と応答。

45ページ、食品ロス啓発の為のアンケートはどのような内容で、どういう反響だったのか、と質問。

矢田千鶴子委員

手元に資料がないので、詳しい説明はできないが、消費者と食品スーパー向けの2種類のアンケートを作成した。スーパー向けのものは消費者の買い物行動で困っていることや要望が主な内容で、その中に食品ロスのことも含まれている。消費者に対しては、買い物時の主な行動（棚の奥から取る、日付を見るなど）、食べられるものや手付かずの食品を捨てたことがあるかといった内容を設問とした。その結果も踏まえ、毎年定期的に開いている食品スーパーとの懇談会の場で報告したところ、「消費者の気持ちがあった。」との意見をもらった。

一番気にしているのは、消費期限・賞味期限であり、この問題をクリアしない限り、期限の3分の1問題が出てくる。一方で、子ども食堂での活用や、他の取組にも広がれば良いと思っている、との発言。

下村晴意委員

食品ロスに関しては、例えば値引きでその時安く買っても、使わないと結局高くつくこともあるなど、市民にどれだけ知識を伝えていくかがこれからの問題と思う、との発言。

- 矢田千鶴子委員** 言われるとおり、ECO-net生駒としても消費者への啓発はスーパーではなく、消費者から訴えかけていかないと広がらないと思っている。消費者心理として存在する「棚の奥から取りたい」という思いをどう変えていくか考えなければならない、と発言。
- 榎村久子会長** 「食品ロス」という言葉を使って何かキャンペーンのようなものは展開されているか、との質問。
- 矢田千鶴子委員** 市役所の食堂において農林水産省が行っている「ろすのん」キャンペーンチラシが置いてあることも見てほしい、との発言。
- 福中眞美委員** ECO-net生駒のせいかつ環境部会としては、イベント等では毎回必ず「食品ロス」という言葉を使い、ガイドやアンケートを実施するなどの活動をしているが、まだまだこれからだと思っている、との回答。
- 矢田千鶴子委員** 28年度は相当力を入れて取り組んでいきたい、との回答。
- 事務局** 現時点でアンケートを取るにしても、啓発に重きを置いたアンケートになる、との発言。
- 下村晴意委員** スーパーでも食品ロス削減の為に、例えば値引きのタイミングを考える必要もあるのではないかと、との発言。
- 矢田千鶴子委員** スーパーでは、商品により一定の基準を設けて対応しているはずである。山梨県で実施されていたと思うが、30・10運動（宴会開始後30分と終了前10分は食べることに徹底する）も良い方法だと思っている。地道にこつこつと市民と一緒に考え、知らせていくことが大事だと思う、との発言。
- 下村晴意委員** 14ページにある「夏の節電対策」の「クールアース・デー」について、今年はどうだったのか、との質問。
- 事務局** 市域全体でどこまで普及しているかは分からないが、今年も継続して実施している、と回答。
- 下村晴意委員** 市民にとっても七夕は馴染みのある日なので、啓発をし続けてもらいたい。続けることが大切である。また、事業所や庁内でもイベントを開催する等、来年以降も期待している、との発言。
- 事務局** 広報誌への掲載、SNSでの発信に加え、商工会議所へも協力依頼を実施しているが、より啓発効果の高い方法を検討したい、との回答。
- 矢田千鶴子委員** 今の件に関しては、NASOからライトダウンの取組要請もきている、との発言。
- 31ページに関することだが、汲み取りはエコパークで処理しており問題無いが、公共下水道が普及できない地域では合併浄化槽が大事になってくる。浄化槽の清掃（汚泥等）について、本来は定期的に行われたいいけないのにされていない状況がある。市として強制力を持たせて取り組むことが必要ではないか。最終的に適切に処理されたものが河川に流れた方が良い、と発言。
- 下村晴意委員** 現在は個人の自主性に任されている状況。全体で行っているものと個人で行うものについて、まずは市で状況を把握してほしいとお願いをしたが、なかなか難しいようだ、と発言。
- 事務局** 「浄化槽法」というのがあるが、一般の人は詳しい内容を知らないので啓発が必要だと思う。担当部局へ伝えたい、と回答。

**矢田千鶴子委員
事務局**

下水道使用料は、浄化槽の保守管理に要する経費より高い、と発言。
きっちりと清掃・保守管理をしたら同じ位の費用かと思う。汚泥がどれ位溜まっているかは見えにくい部分がある。法定検査は義務付けられているのでされていると思うが、担当部局へ周知を図るように伝えたい、と発言。

**榎村久子会長
西岡英俊委員**

他に意見等を促す発言。
事業者の立場から、事業系ごみの話について触れたい。肌感では経費削減をしようという中、事業所がどんどんごみを出している感じでは無いと思う。環境ISOを取得している事業所の増加を促進するなどすれば、意識が変わってくるだろう。中身を分析してマネジメントシステムの普及をすれば良いと思う、との発言。

榎村久子会長

事業所は経費面からもコスト削減に努力されていると思う。本当に事業所が増えているのか等実態を確認した方が良い、と発言。

中西達也委員

大きな事業所は努力するが、小さな個人事業主はもともとの量が少ない為減らさないといけないという意識が芽生えにくいかもしれない。生駒市は小さな事業所が多い為、事業所の努力が見えにくい側面もありそうだ、との発言。

事務局

複合施設（店舗兼住居）のごみについて、今までは家庭系ごみとして出されていたものが、区別して事業系ごみとして出されている可能性もあるのではないかと思う、との発言。

濱崎文紀委員

「食品ロス」という言葉を初めて聞いた。チラシを作って飲食店に置くなど、もっと一般に広げていく必要があると感じた。また、自身は先日竜田川清掃に参加したが、街中での啓発活動は定期的に行っているのか、との質問。

事務局

ちょうど昨日～明日にかけて実施しているものだが、環境美化推進員と一緒に、啓発しながら駅周辺の掃除を早朝に行う活動を、春と秋の年2回実施している、と回答。

西岡英俊委員

クリーンアップキャンペーンには、生駒市は4,000人位が参加しており、県内でも圧倒的に参加者が多い、との発言。

榎村久子会長

竜田川の話と関連して、淀川を子どもたちが親と一緒に歩きながらごみを拾い、ごみでアートを造る有名なイベントがある。ごみを拾わないとアートが出来ないので、子ども達も何が落ちているのか関心を持つ。ごみを拾うことに何かプラスできれば、色々な人が参加しやすいのではないかと発言。

小山彩委員

ごみ半減プランの目標「燃やすごみ半減」は現実的なのか疑問に思う。自身も家庭ごみが有料化になって「袋が高い」と思って減らそうとは思っているが、子どもがいると、おむつは別にしても口をふいたティッシュ等どうしても出てしまうごみがある。食品も買えばごみが発生する。目標が現実的なのか疑問である。「少し減らす」なら現実的だが半分というのは難しいのではないかと発言。

事務局

「焼却量での半減」なので事業系も含めての話であるが、目標としてはハードルが高いと感じている。ごみ減量市民会議を組織しているが、家庭系ごみを30年度には25%減らすように、という話になっている。ミックスペーパーやプラスチック製容器包装などの資源化を進め、野菜の切りくずの

水を絞って出すだけでも重さは減る。キエーロを使えばごみにならず土に戻るので、半減は難しくてもそのような取組を進めていきたい、との回答。

矢田千鶴子委員

環境シンポジウムでは市長からも「半減と言うから効果がある」との発言があったように思う。マークが付いていなくてもプラスチックごみはあるので、そうしたものの資源化をさらに進めていく等、半減に近づけるための取組を一つひとつ増やしていくことが大切だと思う、との発言。

中西達也委員

プランを立てたときに予想しなかったことも出てきている。例えば、食品ロスも当時はそれほど話題になっていなかった。「半減」とインパクトを打ち出したことで生駒市民が色々なことを考え始めた。実現できるかどうかはやってみなければ分からないが、みんなが「やろう」という同じ方向に向いていることがごみ半減プランの持っている意義かと思う。実際に少しずつでもごみは減っている。結果は32年になった時のお楽しみ位でいいかなと思っている。実現に向けてどれだけ努力してきたか、また、これからしていくのかということが重要である。ただ、32年に結果が出たとき「あんなに努力したのに」との反発が出たらどうしようという心配はある。もしかするとほぼ横ばいかもしれないが、右肩下がりをごとこまで維持していけるのか、これが励みになると思う、との発言。

榎村久子会長

食品ロスの問題をごみ問題としてだけで捉えるのは狭いと思う。食糧問題、水問題など地球レベルの大きな問題のひとつである。日本は豊かな国なので、食糧をごみとしてしか考えられないのであれば、違う意味で考え直さなければいけない。発想・イメージの転換が必要で、視野を広げることにより環境の概念が広がるかもしれない。人口が減少すればごみは勝手に減る可能性もある、と発言。

中西達也委員

8ページの「資源化量」と10ページの「再資源化量」はイコールでよいのか、それとも別の概念のものなのか、との質問。

事務局

同じと考えてもらって良い。根本の計画に記載する表現が違っているだけで概念は同じである、と回答。

中西達也委員

そうであれば、その旨を追記してもらった方が良い、との発言。

10ページにある環境活動の参加人数について、平成26年から27年では約5,000人増えているが、数が増えたのはイベント数が増えたということではないのか、との質問。

事務局

大きなイベントを開催した等の臨時的な要素が大きい。27年度は全国から人が集まるいこま会議があったことも増えている理由である、と回答。

中西達也委員

前回は発言したが、環境活動参加人数を白書に記載する意味はあるのか疑問を呈する、との発言。

15ページにある「COOL CHOICE（賢い選択）」は、どのような取組を進めているのか、との質問。

事務局

国が推奨しているCOOL CHOICE運動に、生駒市も賛同していることを記載しており、具体的にはエコ家電買い替え補助、太陽光や燃料電池への補助等により、市民に対して「自然エネルギー等を選択できる機会」を与えていることを概括的に書いている、と回答。

中西達也委員

それならば、「賢い選択をする市民を増やす為に、～等の補助金を出して

いる」というように、具体的に書いた方が良くと思う、との発言。

45ページの食品ロスに関する記述について、三者意見交換会とアンケートを実施したことが関連しているのであれば、記載方法を見直した方が良い、との発言。

榎村久子会長

生駒市の環境状況は他と比べると良く思う。64ページにある竜田川支流の水質状況について、環境基準値を超過している支流が6つあるのは従前と同じなのか、との質問。

事務局

肯定の回答。

榎村久子会長

案件1について審議を終了。

案件2「その他」について審議を宣告。

事務局

前回の審議会で「生駒市土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例」につき審議いただき、6月議会で上程、可決した。周知期間を3ヶ月設け、チラシを市民・事業者向けに周知するため作成し、庁内の関連する部署である建築課、土木課、農業委員会の窓口に設置している。また、広報誌・ホームページによる啓発を行い、10月1日より施行している。現在のところ申請は無いが、農業委員会で農地造成の相談が1件あると聞いている。建築課においては宅地造成申請時に、農業委員会では農地造成の埋立て等を行う場合に、チラシを用いて説明をしてもらっており、案件が発生した場合、環境保全課へ案内してもらうよう連携を図っている。

榎村久子会長

チラシが分かりやすい。事務局に対し、他の案件説明を促す発言。

事務局

前回の審議会で報告した奈良先端科学技術大学院大学における遺伝子組み換え植物（シロイヌナズナ）の漏出事故とその対応について、その後の調査結果及び再発防止策の経過を資料3に沿って説明。

榎村久子会長

発生したときは大変だと思った。大学ができる時もいろいろ議論があった。これがまだ植物であり、また、今回このようなはっきりした対応ができてよかった。生駒市は会議には入っているのか、との質問。

事務局

調査委員会には入っている。記者会見を開く際など、何事も連絡を受けながら対応している、と回答。

榎村久子会長

審議会の閉会を宣言。

16時13分 閉会